研究テーマ：「インターネット空間」における「市民参画ジャーナリズム」の実践的特性に関する研究

研　究　者：高　文局
KO　Munguku
（工学部情報メディア学科　准教授）

【研究・開発の目的】
「インターネット空間」が新たなジャーナリズム・メディア空間としてその影響力を増している。インターネットの急速な普及に伴い、インターネット空間におけるさまざまなコミュニケーションツールを利用して、身近な話題や出来事、社会的イシューなどについて、個々人の意見などを掲示、交換するなど、インターネット空間を中心とした一般市民の「メディア実践」が増えているのである。特に、Twitter、Facebookなどに代表される「ソーシャルメディア」の隆盛やさまざまな「オンライン・ニュースメディア」の出現、さらにスマートフォンの社会的普及などによって、一般市民の行う多様な「メディア実践」のジャーナリズム的意味合いも大きくなっているのである。本研究は、以上のような問題意識のもとに「市民参画ジャーナリズム」の観点から、「インターネット空間」の可能性と課題を実証的に検討することを主な目的とするものである。

【研究・開発の概要】
「インターネット空間」における多様なコミュニケーションツールの登場は、一般市民の「メディア実践」に「ジャーナリズム活動」という意味付けを与えた。そのことは市民参画ジャーナリズムの実現という観点から大きな意味をもつ。本研究は、インターネット空間を通して行われる一般市民の「メディア実践」をニュースの生産・流通(伝播)・消費過程を中心に実証的に分析し、その具体的な様相や特性などを明らかにするものである。急変するオンライン・ニュースメディア環境を正しく認識しその社会的影響力を考慮する上でもその意義は大きい。

【研究・開発の特色】
既存のオンライン市民参画ジャーナリズム研究は、そのほとんどが一般市民のニュース生産における参加可能性のみに焦点を当てたものが多く、さまざまなソーシャルメディアの登場による市民参画の具体的な様相や特性などについては十分な議論がなされていない。本研究はソーシャルメディアを通して行われる市民参画ジャーナリズムの実践的特性に関する本格的な実証的研究である。この研究を通してインターネット空間におけるニュースの社会的流通や一般市民による市民参画ジャーナリズムの実践的特性が見出され、その可能性と課題が明らかにされることが期待できる。

【今後の展開】
本研究は「インターネット空間」をどのように「可能性空間」として読めるかという問題をその出発点にするものである。そのために、新たな「メディア概念」の提示やそれに伴う「オンライン・ニュースメディア」環境の変容などについて事例を踏まえながら検討する。さらに、質問紙調査やケーススタディ、既存データの解析などの社会調査の手法をも駆使して実証的な分析を行う。

【今後の課題】
「インターネット空間」を「コミュニケーション空間」として、さらには「メディア空間」としてその可能性と課題を明らかにするためには、必然と社会理論的な検討を必要とする。また、社会調査の手法を用いて分析を行うので、それに伴う理論的な正当性の確立と社会調査における準備などが課題であると考える。

【その他の情報】
活用した助成金　：科学研究費補助金（萌芽研究）（平成17年度～平成19年度）
科学研究費補助金（挑戦的萌芽研究）（平成23年度～平成24年度）

（ニュースアプリ）

（新聞社のSNSアカウント）

【地域・企業へのメッセージ】
当研究室では、「インターネット空間」の可能性と課題を中心テーマとして研究を進めております。地域の発展や企業のPR活動のために「インターネット空間」をどのように「可能性空間」として活用できるかについて、助言できればと願っております。